

第1回 リハビリ手帳普及事業案内

神奈川県

理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会

リハビリ手帳普及事業代表

2024年7月18日

目次

- 事業の概要
- 事業の目的
- 主使用者
- 施設間連絡票(サマリー)との違い
- 配布(使用開始)

事業の概要

- リハビリ手帳普及事業は2020年より神奈川県理学療法士会、神奈川県作業療法士会、神奈川県言語聴覚士会合同にて会議を積み重ねてまいりました。
- 神奈川県在住のリハビリ対象者およびその家族、また関連する医療従事者・介護従事者の方々に対し、有益なリハビリに関する情報を継続的に提供することを目的とし活動を行っております。

事業の目的

- 「医療と介護の連携」の重要性については、予てより地域包括ケアシステムの構築や体制強化が求められていたのですが、特にリハビリ分野では他職種との適時連絡・共有による効果にはまだまだ多くの課題が残されています。

事業の目的

- 具体的には、退院後も廃用症候群や病状の悪化、フレイル状態の進行などなく、安心して地域・在宅生活を送れるよう、さまざまな分野で関わる、われわれリハビリ専門職の取り組みとその情報を、切れ目なく、且つ分かりやすく他職種の方々に提供できるツールを作成することが必要だと思われま

事業の目的

- その情報共有ツールとして、医療介護情報のクラウド化を促進していく流れの中、現状一般的に行われている情報共有方法を通じ、有益なリハビリ情報をタイムリーに伝達できる媒体として、また県民や他職種の皆様にとってリハビリ情報が必要不可欠なものとして認知していただく実績づくりとして、まずは“紙媒体”での「リハビリ手帳」普及事業を推進していきたいと考えております。

事業の目的

- リハビリ手帳の内容としては理学療法士、作業療法士、言語聴覚士に関わる全ての領域を現状では補えておりませんが、リハビリ対象者やそのご家族が所時・保管し、リハビリ専門職が介入した際に必要な情報や評価結果、アドバイスなどを適宜記載することで、継続的に更新できる“紙媒体”の支援ツールとして、地域在宅の臨床現場で活用実績を積み重ねていきたいと考えております。

主使用者

- リハビリテーション職が関わっている対象者に関する他職種の方となります。
- 条件として、対象者（ご本人またはご家族）の同意のもと対象者またはご家族が情報を保持し、情報共有ツールとして管理および使用できる環境の方となります。

施設間連絡票(サマリー)との違い

- 施設間連絡票は、リハビリテーション職が対象者に関わっている期間のリハビリテーション情報を、対象者が移動した次施設のリハビリテーション職へ主に伝える情報です。
- リハビリ手帳は、施設間連絡票とは異なり、リハビリテーション職のみではなく対象者に関わる他職種へもリハビリテーション情報を伝えることができます。そのため、他職種にも認識しやすい言葉を使用している部分もあります。また、対象者の管理次第では関わる他職種へ過去のリハビリテーション情報も伝えることが可能となり、他職種から求められているリハビリテーション情報がより充実することで、対象者が安心してサービスを継続して受けることができます。

配布（使用開始時期）

- 特に決まりは設けておりません。
- 他職種やリハビリテーション情報の共有が必要な対象者への配布をお願いしています。

アンケートにご協力お願い致します。

- https://docs.google.com/forms/d/18vjW8ZuWw0hfMaQQsojiqHT62oRJIY9ohe1H3Dz222M/viewform?edit_requested=true

次回以降予定

- セラピスト・他職種アンケート結果報告
- サイズ、ファイリング方法、印刷等の説明
- 使用方法(基本セット、必要項目選択、ダウンロード、印刷、PC入力)の説明
- 意見対しての修正内容説明
- 使用例提示(全内容or一部内容か検討)
など、その他、用意あります。